

国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業

(報告)

議員名：望月 善子

(獨協医科大学病院女性医師支援センターセンター長)

【開催趣旨・目的】

栃木県では、県全体の医師確保が喫緊の課題となっており、地域医療を再生しようという機運とともに、昨年 4 月、獨協医科大学病院女性医師支援センターが設立された。一人ひとりに合わせたキャリアデザインの実現に向け、キャリア・環境・情報・地域連携という 4 つのサポート体制で活動している。研修医・医学生を交えた医師の交流会を定期的に開催し、ロールモデルの実体験から女性医師がキャリアを継続するための就労環境やワーク・ライフ・バランスについての考えを深めたり、ホームページを充実させ人的ネットワークを含めた地域連携の推進を図っている。その中で、男女共同参画意識の醸成は避けて通ることができず、健全な医療体制を構築するためにも、医療を提供する側・受ける側、寄り添う意識を啓発するよう男女共同参画を意識した働き方についてディスカッションを深めたい。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

女性医師支援センター講演会 ―女性研究者の参画拡大に向けた環境づくり

【日時】平成 24 年 11 月 10 日(土) 午後 14:30~16:30

【場所】獨協医科大学関湊記念ホール

【参加者数】約 80 人

【プログラム】

- 主催 獨協医科大学病院 女性医師支援センター
内閣府、男女共同参画推進連携会議
- 後援 栃木県産婦人科医会、栃木県医師会
栃木県女性医師支援センター
自治医科大学医師・研究者キャリア支援センター
- プログラム
司会進行…女性医師支援センターセンター長 望月善子
14:30 開会挨拶 獨協医科大学病院副院長 井上晃男先生
来賓挨拶 栃木県医師会会長 太田照男先生
14:35 基調講演「キャリア継続の道しるべ」
津田喬子先生(名古屋市立東部医療センター名誉院長・日本女医会会長)
15:25 特別講演「女性医師とともに生きる一夫として、同僚として、上司として」
藤巻高光先生(埼玉医科大学脳神経外科教授)
16:15 質疑応答
16:30 閉会挨拶 栃木県女性医師支援センターセンター長 草間幹夫先生

【参加者からの主な意見】

「女性だけでなく、男性医師（教授や医局長クラスのDrも）こそ参加してほしいと思いました。」

「医師として、キャリア形成についてもっと考えなければいけないと改めて感じました。漠然と育児の時期には仕事から離れてもいいかと考えていましたが、どんな形でも仕事を続ける、続けられる方法を考えたいと思いました。」

「津田先生の話にもあるようにキャリア継続については、学生からの教育が必要と思います。」

【シンポジウム等を通して得た成果（効果）】

医師のみならず、医学生または高校生を含む一般の方々にも参加していただき有意義な会になった。アンケートにも多くの感想または意見が寄せられたように、演者の一歩先行くエネルギッシュな話に触発され、男女共同参画意識を念頭に置いた生き方や働き方を考え、明日から実践するためのよい機会となった。

また、本学では、医師として求められる基本的資質あるいは医師としてのキャリアを継続させる生涯学習への準備として、「男女共同参画とワーク・ライフ・バランス」という講義を始めているが、男女共同参画意識の醸成の早道は、やはり教育にあるということを確認し、さらに自己啓発の中からも段階的に実現できるということを確認できた。

【今後の課題】

医師の働きやすい環境を整えるということは、健全な心身を有する医師が、安心、安全、思いやりのある医療を提供することにつながり、大学ではより高度な独自性の高い研究ができることに結びつくと考えます。当センターでは女性医師のみならず全ての医師が、自身のワーク・ライフ・バランスを考慮したキャリア形成実現のための手助けをし、また医学生には引き続き男女共同参画意識の向上を促すための活動を行っていきたい。多様な価値観を容認しつつ、継続は力なりの言葉にあるように、医療のプロとして継続していくことができるようバックアップを怠らない。